

# 学術調査報告書

2008年 4月 30日

(フリガナ)	フジイヨシコ	入学年度	2002年度
申請者名	藤井 欣子	学年	3

研究題目	ハプスブルク帝国シュタイアーマルクにおける ドイツナショナリズム—農村同盟と農民の国民化—
主任指導教員	相馬 保夫

## (1) 学術調査の目的

本調査の目的は、多民族国家ハプスブルク帝国シュタイアーマルクにおいて 1890 年代から第一次世界大戦前までの時期に、農村住民を政治的に動員するべく活動した諸協会の具体的活動内容および言説について調査することである。その中でも特に、1896 年にシュタイアーマルクの首都グラーツにおいて貴族ロキタンスキー男爵によって設立された「キリスト教農村同盟(以下、農村同盟とする)」の活動を検討し、当該地域の農民たちをリベラルなドイツ国民意識によって国民化しようとする試みの内容を明らかにする。以下、問題関心を詳しく述べる前に、簡単にその前提となる状況を説明する。

まず、国民化の基盤となる国民意識であるが、これはハプスブルク帝国内では歴史的に言語を核として形成されたものである。(唯一の例外はユダヤ教徒であり、これは宗教が指標とされた。)ドイツ語やチェコ語を核としたそれぞれの国民意識は 1848 年の革命を契機として政治化し、70 年代にはさまざまな協会組織を通して広がっていった。この国民意識を広めようとするナショナリズムの担い手となったのは、教養と財産に価値をおくような、リベラル派といわれる都市のブルジョワたちであった。彼らは当初「言語さえ習得できればどちらの国民にもなれる」といったリベラルな国民意識を掲げていた。しかし 80 年代を通して徐々にそういった可変的な国民意識は批判されるようになり、「民族的出自」「血統」といった言葉で規定される不変的なものへと変わっていく。1890 年代、ハプスブルク帝国内ではこういった狭量なナショナリズムが各地で昂揚し、国政を揺るがす影響力を持つようになっていた。それぞれのナショナリズムを主導するナショナリストたちがド

イツ語系住民をドイツ人に、チェコ語系住民をチェコ人にしようとし、それぞれが国民社会を形成するべく互いに国民的資産 Nationalbesitzstand(人口、土地、文化的財産など)を増大させるために競いあった。その際、ボヘミアやシュタイアーマルク、ティロールといった、言語を異にする人々が混住していたような地域は「言語境界地域」と呼ばれ、国民意識が激しくぶつかり合う紛争の場と位置づけられたのである。

以上の状況を踏まえた筆者の主な関心は、以下の3点である。まず1点目として、主に都市のブルジョワによって担われた国民化の運動が、農村地域ではどのようなレトリックをもって広がり浸透していったのかを具体的に見ていきたい。いかにして、自分たちはドイツ語を話す農民であるという曖昧な階級意識しか持たなかった人々が、自分たちはドイツ語を話すドイツ人であるという国民意識を抱くにいたったのか。もう1点は、農村住民たちがどのような指標や利害に基づいて協会組織を選んでいったか、またそれぞれ異なる回路を持って国政に参加していったかである。つまり、どのような差異が、農民たちの所属する組織を分かつかを考察したい。さらにもう1点は、農村地域で実際に国民化の活動を担った人々の思想的系譜を詳らかにすることである。彼らに思想上の影響を与えたのは、ヒトラーの手本となったともいわれる煽動政治家シェーネラーであった。シェーネラー自身、当初はリベラル派として出発したが、80年ごろから徐々にドイツ国粋主義的傾向を強めていく。彼の思想が地方のエピゴーネンたちとその組織にいかなる影響を与えたかを明らかにしたい。

以上の3点を考察するために、筆者が選んだのが冒頭に述べた農村同盟である。この組織は、言語境界地域といわれたシュタイアーマルクのグラーツを中心として活動しており、その思想的指導者はシェーネラー派といわれたロキタンスキー男爵であった。またロキタンスキーは、シュタイアーマルク領邦議会や帝国議会において、農民代表として積極的に発言していた。本調査では、同同盟の活動の詳細を見るために、現地でないと閲覧の難しい地方新聞や協会規約、領邦議会議事録などを閲覧・収集する。同同盟の活動を検討・分析することは、筆者の博士論文の中での重要な論点である「ドイツ系リベラル派による農民の国民化」を実証的に示す例となるだろう。

## (2) 調査実施地および期間

調査実施地および期間は、移動日を含めると2月3日～23日までの合計22日間。

詳細は以下の通り。

- ・ 2月4日～7日（計4日間） ウィーン  
オーストリア国立図書館
- ・ 2月8日～22日（計15日間） グラーツ  
グラーツ大学情報図書館  
シュタイアーマルク州立文書館  
シュタイアーマルク州立図書館  
シュタイアーマルク農業会議所図書室  
シュタイアーマルク農民同盟図書室  
グラーツ大学現代史研究所

### (3) 学術調査の具体的な実施内容

ここでは、それぞれの図書館を挙げながら、そこで行った調査について述べる。  
文末に文献表として収集資料をまとめたので、以下はその表の番号を参照されたい。

#### オーストリア国立図書館(ウィーン)

国内最大の規模であるオーストリア国立図書館は、ウィーンの王宮の中にある。740万アイテムを所蔵。同図書館は、オーストリアにおいて発行された書籍、新聞・雑誌の他、オーストリア各地の大学に提出された学位論文等を所蔵している。筆者はウィーンに滞在した4日間、毎日この図書館を利用した。

ここでは主に、シェーネラーに関する史料や二次文献、学位論文を収集した。

まず、シェーネラーが発行していた新聞『歪曲されないドイツの言葉』(文献1)である。シェーネラーの主張するドイツ・ナショナリズムは、反ユダヤ主義、反カトリック(親プロテスタント)、反ハプスブルク帝国(親プロイセン)を柱としており、この思想にキリスト教農村同盟の指導者ロキタンスキーも影響を受けているという。この新聞は1883年から1918年までほぼ月2回のペースで発行されていたが、今回は1883年と1884年の分を閲覧し各記事の題名と内容を手書きで記録した。シェーネラーの署名記事は、内容が農民やドイツ・ナショナリズムに関するものを選んで収集した。

次に、博士・学位論文を収集した。これも、主にシェーネラーに関するものである。シェーネラーの政治的な動向と思想内容に関しては、アメリカの研究者ホワイトサイドによ

る詳細な研究 (Whiteside, Andrew G., *The Socialism of Fools, Georg Ritter von Schoenerer and Austrian Pan-Germanism*, Berkeley, 1975.) があるが、ここではより現代的な関心から、シェーネラーを同じく扇動政治家といわれるイェルク・ハイダーと比較している論文を選んだ。(文献 28)

その他の二次文献として、1897年に起こった「バデーニ言語令」をめぐる帝国内の混乱を描いた『バデーニ言語令 1897年』全2巻(文献 29,30)を収集した。この事件は、ボヘミアとモラヴィアにおいてチェコ語を内務公用語化とする言語令に端を発するものである。チェコ語が優遇されることへの危機感から、各地でドイツ語系住民によるデモや暴動が起こった。ウィーンでは帝国議会が紛糾し、このとき帝国議会議員だったシェーネラーはドイツ・ナショナリズムの急先鋒として人気を博した。言語境界地域であったシュタイアーマルクでも、ドイツ語系住民とスロヴェニア語系住民との間で衝突があった。こういったドイツ・ナショナリズムが昂揚するような事件を具体的な例として挙げていくためにも、この文献は役立つと思われる。

その他の二次文献として、シェーネラーをカール・ルエーガーらと共にヒトラーの思想的先行者として捉える研究書を収集した。(文献 33)

さらに、シュタイアーマルクの歴史や文学を特集した雑誌を収集した。(文献 32) その掲載論文の中でもとくに、ブルケルト・ギュンター・Rによる「ドイツ・ナショナル派によるシュタイアーマルク農民感化の試み 1880-1914年」という論文が重要である。これは、新聞や知事による報告書といった史料を駆使してシュタイアーマルクにおけるドイツ・ナショナル派の農民諸団体の歴史を概観している。シェーネラーとロキタンスキーは、反教権と自由主義とドイツ・ナショナリズムという点で共通していたと指摘している貴重な先行研究である。

### グラーツ大学情報図書館

グラーツ大学情報図書館では、シュタイアーマルク州で発行された主要な新聞の大部分がマイクロフィルムとして保管されている。グラーツ大学中央図書館では、古い新聞のオリジナルが特別室に保存されているが、収集するには高額のコピー料金を支払って依頼しなくてはならない。この情報図書館であれば簡単にスキャンでき、しかもプリントアウトしなければすべて無料である。

ここでは主にキリスト教農村同盟がグラーツを中心に発行していた新聞『農民同盟者』

『農民の友』『農村通信』(文献 2,3,4) の全記事を 10 数年分にわたってデジタル・データとして集めることができた。また、ライバル組織であるカトリック農民協会が発行していた『日曜通信』(文献 8) も収集した。これらの新聞には、上述のバデーニ言語令といったような個々の事件報道の他に、シュタイアーマルク領邦議会の動きや、キリスト教農村同盟の集会の内容、穀物相場一覧、読者からの投稿欄、連載小説、農業技術について、などの多様な記事が掲載されている。アメリカの研究者ジャドソンは、ブルジョワ中心のリベラルな協会が出版していた雑誌に掲載されていた連載小説からナショナルな言説を抽出していたが、筆者はこういった新聞に載っている集会の内容や個々の事件に関するコメントなどに注目したい。特に、集会の記事にはかなり詳細に弁士の語った内容が書かれているので、これらから同盟の具体的な活動内容を明らかにすることができるだろう。

その他、二次文献として統計資料集(文献 34) を収集した。

#### シュタイアーマルク州立図書館

オーストリア国内の州立図書館の中では最古にして最大の規模である。1811 年に設立され、精神諸科学を中心とするコレクション 70 万冊を所蔵する。シュタイアーマルクの古文書の保存・収集を管轄しており、シュタイアーマルクに関する古文書を破棄・譲渡する際には、必ずここへ届け出なくてはならないという。

この図書館では、キリスト教農村同盟の規約を調査した。調査の結果、カトリック農村協会の規約は所蔵していたが、キリスト教農村同盟のものはなかった。全ての古い史料の情報もオンラインになっているとの事だったが、オンラインでは所蔵が確認されず、カードを綴じたものも見せてもらったが、やはり確認できなかった。

#### シュタイアーマルク州立文書館

オーストリア国内の文書館の中では最大規模で、5 万 5 千書棚(Regelmeter)の蔵書がある。9 世紀から現代までの文書や画像を所蔵している。

ここで、キリスト教農村同盟の規約を収集することができた。(文献 7,8,9) 設立時の規約はロキタンスキー自筆のものであり、その後 1896 年と 1912 年に改訂されている。いずれも、知事に届け出たものである。どのような改訂がなされたのかは、これからそれぞれの版をじっくり比べてみる必要があるが、ひげ文字の筆記体で書かれているため判読に時間がかかることが予想される。

また、ロキタンスキーが領邦議会議員として活躍していた 1896 年から 1902 年までの時期の領邦議会議事録の閲覧申し込みをしたが、書庫からは速記録 2 冊と付録 2 冊の計 4 冊しか出てこなかった。総索引もなく、司書に尋ねても「すべてに目を通すしか方法がない」といわれ、ここでの議事録の調査は残念ながらほとんど進められなかった。

### シュタイアーマルク農業会議所図書室

上記文書館の司書から、農業会議所ならば農業団体関係の資料があるのではと勧められて、訪れた図書室である。農業会議所の一画にあり、蔵書数などは不明。この農業会議所は、もとは 1819 年にヨハン大公によって啓蒙主義的につくられた「シュタイアーマルク農業協会(die k.k. Landwirtschaftsgesellschaft fuer Steiermark)」を前身としており、これ自体が興味深い研究対象となりうるものである。

ここで筆者は、ハーベル氏という図書室担当職員(司書ではない)と知己を得ることができた。グラーツに滞在した 2 週間のうち後半 1 週間は毎日この図書室に通って、蔵書を閲覧・調査した。

この図書室には、1886 年から 1918 年まで 22 年分のシュタイアーマルク領議会議事録が所蔵されていた。ここは上記の文書館とは異なり、「速記録(stenographisch)」「官公庁用(amtlich)」「付録(Beilage)」という 3 種類がきちんと揃っていた。何冊か欠本があるものの全部で 65 冊に及ぶコレクションで、別冊として総索引(General Index)がついていた。この総索引を参照したので、効率良くロキタンスキーが発言したセッションを選んで収集することができた。(文献 10~23) また、農業会議所が改装した際に編まれたパンフレット(文献 24,25) や、2004 年の農業会議所 75 周年を機に編集された図書(文献 35)などを収集した。

ちなみに、同図書室は、1860 年代から現在に至るまでの”Landwirtschaftliche Mittheilungen(農業報告書)”を初めとした大量の史料・統計、図書を所蔵しているが、これらはまとまった受け入れ記録もなく地下の書庫に眠っている。現在、ハーベル氏が図書整理をしながら手作業で順次入力中であるため、一刻も早いリストの完成が待たれる。

### シュタイアーマルク農民同盟図書室

シュタイアーマルク農民同盟は、カトリック農民協会を前身とする団体である。グラーツ市内の交通の要であるヤコミニ広場に面した建物の 2 階にオフィスや資料室がある。

こちらにはカトリック農民協会に関する史料があるのではないかと期待して行ったが、残念ながら第二次世界大戦以前の古い史料はここにはないとの事だった。ウィーンの農民同盟にあるかも知れないという情報を得たので、機会をもうけてぜひ確認しに行きたい。

ここでは、農民同盟が発行している新聞・雑誌を収集した（文献 5,6）。これらは、農民同盟の 50 周年と 100 周年の特集記事であり、キリスト教農村同盟を含むシュタイアーマルク農業諸団体の歴史の概略を述べた内容である。

#### (4) 学術調査の結果およびそれに基づく考察など

今回の学術調査の結果、おおまかに分けて 3 つの資料群を収集することができた。まず、第一は煽動政治家シェーネラーに関する史料(シェーネラー発行の新聞や二次文献)であり、第二はシュタイアーマルク領邦議会議事録であり、第三は農村同盟が発行していた新聞や規約である。以下、それぞれの資料から導かれる考察を述べていきたい。

まず、第一の資料群であるシェーネラー関連史料についてである。ウィーンにおける資料調査により、シェーネラーが 1884 年から発行していた新聞の一部を閲覧できた他、学位論文や二次文献を収集することができた。中でも、新聞を実際に閲覧できたのは大きな収穫であった。筆者が意外に思ったのは、シェーネラーがあくまで発行人となっていたことである。編集者は別におり、シェーネラーは年に数回署名記事を寄稿している程度であった。ただし「編集部」という名義での記事が多く、ここで彼も筆を揮っていることは大いに考えられる。私が閲覧できた 2 年分の中で非常に興味深かったのは、シェーネラーがビスマルクへ向けた誕生日の言葉(一面記事となっていた)と、北部鉄道汚職事件に関して読者に署名入り請願を編集部へ送るよう呼びかけた記事である。前者からは「ドイツ人」としてハブスブルク帝国よりむしろドイツ帝国(プロイセン王国)へ多大なシンパシーを抱いていた彼のドイツ・ナショナリズムのあり方が窺える。また、後者からは新聞を直接政治の道具として戦略的に用いていたことが分かる。彼は、編集部に請願書を送ってくれた何百名という読者の名前を議会でゆっくりと読み上げて議事妨害を行ったのである。こういった記事などから、彼のドイツ帝国への傾倒ぶりと煽動政治家としての手腕および影響力の大きさを具体的にイメージすることが可能となった。

次に、第二の史料群であるシュタイアーマルク領邦議会議事録についてである。グラーツの農工会議所での調査により、1896 年から 22 年分の議事録を閲覧することが出来た。総索引で見るとロキタンスキーは、1897 年から 1908 年まで領邦議会議員を務めており、

その発言は、狩猟権、荘園法、漁労権、森林用益権といった農業に関する問題から、選挙法改正や道路整備、鉄道建設など多岐にわたっている。彼は、農民同盟代表の議員として議会に出席していたが、同時期にもちろんライバル組織である農民協会代表であるハーゲンホーファーや他数名の議員たちも出席していた。例えば、学校問題をめぐる両者の姿勢の違いなどは、議会での発言を見るとより際立つ。農民の労働力確保のために義務教育は4年で充分であると主張するハーゲンホーファーらに対し、ロキタンスキーは「農民に十分な教養をつけることを考えないあなたたちは、国民経済的な視点を欠いている」と批判するのである。こういった発言には、ロキタンスキーの教養を重視するリベラルな側面と、国民経済を念頭に置くナショナルな側面がよく表れている。逆に、ハーゲンホーファーらの発言からは、農民の利益を第一に考える階級優先の態度がよく分かる。こういった議事録での発言を注意深く読んでいくことで、それぞれの考え方の違いや、代表している農民層のプロフィールをさらに明らかにしていきたい。

そして、第三の史料群である農民同盟発行の新聞および規約について述べる。グラーツ大学情報学図書館では、農民同盟発行の新聞はマイクロフィルム化して保存されていたため、10年以上にわたる長期間分を比較的容易に収集することができた。この新聞を分析することで、この同盟が具体的にはどのような活動をしていたかを明らかにすることができるだろう。例えば、一ヶ月に2～3回ほどの頻度で開催された地方集会についての記事を見ると、毎回、地方の大きなレストランなどに200名前後の土地持ち農民が集まっていたようである。そこでは通常2名の弁士が、農民をめぐる窮状を訴えたり、選挙の候補者を紹介したりと非常に政治的な活動が行われていた。新聞にはこういった集会での演説内容の他、他の新聞からの批判やそれに対する(かなり感情的な)反論なども掲載されていて興味深い。これらの記事を分析することにより、農村同盟が農村住民の一部をリベラルかつドイツ・ナショナルな言説によって「ドイツ国民」としてまとめ、政治的に動員していった様子を明らかにしていきたい。

最後に、筆者の博士論文の構想と本調査の関係について述べる。上で見てきたように、1880年代から世紀転換期にかけての時期、ケルンテンやシュタイアーマルクの一部地域では、農村同盟のようなリベラルでドイツ・ナショナルな組織が活発に活動し、保守派に対抗していた。先行研究によると、同地域においてドイツ国民主義を支持していた農民層の間には、後の1930年代にオーストリア・ナチ党が勢力を広げていくことになったという。



その原因として、1930年代の農村社会の経済的逼迫とそれに伴った社会関係の崩壊などの変化が挙げられる。しかし、筆者はこの農村に於ける社会的変化は1880年代に都市部から地方までリベラルな国民意識が広がるにつれてすでに始まっているのではないかと考えている。リベラルな国民意識の浸透、すなわち国民化とこの社会的変化はコインの裏表だと考えているからである。

ジャドソンは、この1880年代にこそ、リベラルかつナショナルな論理によって社会的関係の読み替えが行われたと指摘している。彼は、都市部の「雇用主－使用人」関係が「ドイツ人－チェコ人」といったナショナルな関係へと読み替えられていくプロセスを、ボヘミアのリベラル派諸協会の新聞や雑誌を分析することにより明らかにした。筆者はこの結論をふまえ、シュタイアーマルクの農村部においても同じプロセスが起こったと仮定する。すなわち、リベラル派の論理によって「地主－小作人」といった伝統的な関係が掘り崩され、さらには「ドイツ人－スロヴェニア人」といったナショナルな関係へと読み替えられていくというプロセスである。

このシュタイアーマルクという地域にはドイツ語系住民とスロヴェニア語系住民が混住していたため、さまざまな社会問題がナショナルな問題に読み替えられやすい地域であったといえる。同地域においてドイツ国民主義的に農民層を煽動した農民同盟の言説を、今回の調査の結果得られた史料を用いて分析することによって、博士論文で農村住民たちの社会的関係の変化を抽出していきたいと考えている。

## 参考文献一覧

### 新聞・雑誌

1. *Unverfaelschte Deutsche Worte*, 1884.(Teil)

(『歪曲されないドイツのことば』、1884年、部分)

2. *Bauernbuendler*, 1897-1907. (『農民同盟者』1897-1907年)

3. *Bauernfreund*, 1897-1899. (『農民の友』1897-1899年)

4. *Landbote*, 1908. (『農村通信』1908年)

5. *Sonntagsbote*, 1888, Mai – Dez. (『日曜通信』1888年、5月～12月)

6. *Steirischer Bauernbund*(Hg.), *Steirischer Bauernkalender* 1949.

(シュタイアーマルク農民同盟編『シュタイアーマルク農民カレンダー1949年』)

農民同盟50周年記念記事

7. Neues Land, 30. Mai 1999. (新しい大地、1999年5月30日号)

農民同盟 100周年記念記事

規約

8. *Satzungen des Christlichen Bauernbundes fuer den Sprengel des Landesgerichtes Graz*, 1893.

9. *Satzunge des Christlichen Bauernbundes fuer das Herzogthum Steiermark*, 1896.

10. *Satzunge des Christlichen Bauernbundes fuer das Herzogthum Steiermark*, 1912.

キリスト教農村同盟の規約(1893年、1896年、1912年)

シュタイアーマルク領邦議会議事録 (1895～1901年まで)

11. *Beilagen zu den Stenographischen Protokollen des Steiermaerkischen Landtages*, VII. Landtagsperiode, VI Session, 1895/6, von Nr.1-105.

12. *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Siebente Landtagsperiode, VI. Session vom 28. und 30. December 1895 und 8. Jaenner bis 13. Feburuar 1896.

13. *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, I. Session vom 28. bis 30. December und 26. Jaenner bis 3. Maerz 1897.

14. *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, II. Session vom 28. December 1897 und 10. Jaenner bis 26. Februar 1898.

15. Protokoll ueber die 1. Sitzung der III. Session in der VIII. Landtags-Periode des steiermaerkischen Landtages, am 28. December 1898.(データ破損のためタイトルなし)

16. *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, III. Session vom 28. und 29. December 1898 und 14. Maerz bis 18. Mai 1899.

17. *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*,

Achte Landtagsperiode, IV. Session vom 29. und 30. December 1899 und 26. Maerz bis 5. Mai 1900.

1 8 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, V. Session vom 17. bis 20. December 1900 und 17. Juni bis 26. Juli 1901.

領邦議会議事録・一部(ロキタンスキーの発言したセッションのみ抜粋)(1900~1908年まで)

1 9 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, 1900/1.

2 0 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, 1901/2.

2 1 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, 1902/3.

2 2 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, 1903/4.

2 3 . *Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, 1905.

*Stenographische Protokolle ueber die Sitzungen des Steierm. Landtages*, Achte Landtagsperiode, Band I, 1906-8.

農業会議所に関するパンフレット

2 4 . Schoegg|Ernst, Elisabeth, *Ein Haus voll Tradition und Wandel, Vom Katastralmappenarchiv zur Landwirtschaftskammer*, Fuerstenfeld, 2005.

(シュエッゲル-エルンスト・エリザベート『伝統と変化に富んだ建物、土地台帳地図文書館から農業会議所へ』フュルステンフェルト、2005年。)

2 5 . Landeskammer fuer Land- und Forstwirtschaft Steiermark (Hg.), *Die neue Landwirtschaftskammer; Eine schlagkraeftige Bauernvertretung in der Stadt, Graz?*,2005?

(シュタイアーマルク農林業会議所編『新しい農業会議所、都市においてインパクトのある農民の代表』グラーツ、2005年?)

博士論文・学士論文

26. Adler, Alois, *Die Christlichsoziale Bewegung in der Steiermark von den staendischen Anfängen zur Volkspartei*, Dissertation, Universitaet Graz, 1956.

(アードラー、アロイス「シュタイアーマルクにおけるキリスト教社会主義運動、身分階層的な原初から国民政党内へ」博士論文、グラーツ大学、1956年。)

27. Claudia, Frank, *Georg Ritter von Schoenerer, politische Ziele und deren Umsetzung*, Diplomarbeit, Universitaet Innsbruck, 1990.

(クラウディア、フランク「ゲオルグ・リッター・フォン・シェーネラー、政治的目標とその転換」学士論文、インスブルック大学、1990年。)

28. Mayer, Juergen, *Populismus in Oesterreich, Georg Schoenerer und Joerg Haider—ein Vergleich*, Diplomarbeit, Universitaet Graz, 2005.

(マイヤー・ユルゲン「オーストリアにおけるポピュリズム、ゲオルグ・シェーネラーとイェルク・ハイダー、一つの比較」学士論文、グラーツ大学、2005年。)

その他の二次文献

29. Sutter, Berthold, *Die Badenischen Sprachenverordnungen von 1897*, I. Band, Graz, 1960.

30. Sutter, Berthold, *Die Badenischen Sprachenverordnungen von 1897*, II. Band, Graz, 1965.

(スッター・ベルトールト『バデーニ言語令 1897年』第一巻、第二巻、グラーツ、1960年、1965年。)

31. Juedisches Museum der Stadt Wien (Hg.), *Die Macht der Bilder, Antisemitische Vorurteile und Mythen*, Wien, 1995.(Teil)

(ウィーン市立ユダヤ美術館編『表象の力、反セムの偏見と神話』ウィーン、1995年。)

—Moser, Jonny, “Der Antisemitismus der Deutschnationalen in Oesterreich“

(モザー・ヨーニー「オーストリアにおけるドイツナショナル派の反ユダヤ主義」

—Pollerross, Friedrich, “Die Erinnerung tut zu weh!, Georg Ritter von Schoenerer und die Folgen“

(ポラーロス・フリードリッヒ「思い出は痛すぎる！ゲオルグ・リッター・フォン・シェーネラーとその追随者たち」) 等

3 2. Institut fuer Oestterreichkunde (Hg.), *Oesterreich in Geschichte und Literatur mit Geographie*, 30. Jahrgang, Heft 2-3, Wien, 1986.

(オーストリア学研究所編『歴史と文学の中のオーストリア、地理学と共に』30巻、2-3合併号、ウィーン、1986年。)

－ Burkert, Guenter R., “Deutschnationale Beeinflussungsversuche steirischer Bauern 1880-1914“

(ブルケルト・ギュンター・R「ドイツナショナル派によるシュタイアーマルク農民感化の試み 1880-1914年」)

(5) 調査地・文書館建物などの写真



オーストリア国立図書館(新王宮) 入口



シュタイアーマルク農業会議所 外観